

CASBEE-建築(新築)2014年版
国立国会図書館関西館新館(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.30			3.3
1 音環境		1.7	0.15			1.7
1.1 騒音		2.0	0.40			
1.2 遮音		1.8	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		3.8	0.35			3.8
2.1 室温制御		3.8	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能	外断熱工法の採用	5.0	0.25			
3 ゾーン別制御性	ゾーン別空調機、冷水・温水4管式制御	4.0	0.38			
2.2 湿度制御	年間蒸気加湿、除湿制御	5.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		2.6	0.25			2.6
3.1 昼光利用		2.2	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	7階にライトシェルフの設置	4.0	0.40			
3.2 グレア対策		1.0	0.30			
1 昼光制御		1.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御	通路は人感センサー制御、書庫ブロックごとに点滅区分	5.0	0.25			
4 空気質環境		4.5	0.25			4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建築材料を全面的に利用	5.0	1.00			
2 アスベスト・Pb						
4.2 換気		3.3	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/18	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視	中央監視によるCO ₂ 監視	5.0	0.50			
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			2.7
1 機能性		1.6	0.40			1.6
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40			
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応		1.0	1.00			
3 バリアフリー計画						
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30			
1 広さ感・景観						
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画		1.0	1.00			
1.3 維持管理		3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	標準以上の取組みに該当	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50			
3 緊急対応設備						
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30			3.4
2.1 耐震・免震		3.8	0.50			
1 耐震性	重要度係数1.25を考慮	4.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床材にビニル床シートを採用	5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			

2.4 信頼性			3.4	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備	非常用発電(既設)、無停電電源(既設)、浸水対策、電源車接続で照明点	5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.6	0.30			3.6
3.1 空間のゆとり			2.4	0.30			
1	階高のゆとり		2.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		共用部:3500/m ² 、書架部:13,300/m ² を考慮	4.0	0.30			
3.3 設備の更新性			4.2	0.40			
1	空調配管の更新性	更新しやすい共用部、ピット、機械室のみの空調配管	4.0	0.20			
2	給排水管の更新性	更新しやすい共用部、ピットのみの給排水配管	4.0	0.20			
3	電気配線の更新性	ケーブルラックにより仕上げ材を痛めることなく更新可能	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	配管により仕上げ材を痛めることなく更新可能	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	更新・増設スペースを確保	5.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40			3.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		造成により建物高さを低く抑え、植栽による良好な景観を形成	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.7
LR1 エネルギー			-	0.40			4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				-			5.0
2 自然エネルギー利用		クールビット	4.0	0.13			4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	5.0	0.63			5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.53	5.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			3.5	0.25			3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00			
4.1	モニタリング	負荷種別ごとに設置した計量メーターで使用量を記録	4.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			2.9
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	雑用水に雨水利用	4.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60			2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70			
1	消火剤	不活性消火ガスの採用	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=1以下の断熱材を採用	5.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮		LED照明、照明制御(人感センサー制御、昼光センサー制御)	3.9	0.33			3.9
2 地域環境への配慮			2.9	0.33			2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減	雨水抑制貯留槽の設置	4.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33			3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.3	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		-	-			
3	日照障害の抑制	日影規制4時間/2.5時間をクリア	4.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	漏れ光の少ない器具、エネルギー効率の高い器具、広告物照明無し	5.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			